

#### ▼ 津波で流されたケアホーム・イチゴハウス跡地



害者の就労所で営んでいます。常者も多くの地域のコミニティたほか、大きな時期には地域の人たちからもとてもおいしく好評でした。そのハウスの側に、地域の要望からケアホールを増やそうと、昨年末から二棟目の

はあります。たゞ旅館のことまで考ふる余裕  
はありませんでした。  
しかし、「津波で流された地域で  
は、いつ事業を再開できるかはわから  
ないが、具体的に決まっていなけれ  
ど、障害を持つ方が再開を待つてい  
るのを見ると、やつぱり建物の被害が  
大きかつたから辞めよう、という気持  
ちはならないですね。むしろこの仕  
事には終わりはないので、必ず立ち上  
がつて再開します。」と理事長の森谷  
隆三さんは話しています。

新たに一ノズから再開へ

まず、地域に高い一ヶ所がある障がい児の日中一時預かり事業は夏休みに利用者が大きく増える為、プレハブを建築し、八月のオープンに向け動き出しています。日本財団や認定NPO法人難民を助ける会に施設再建のための助成金を申請中。また、流失したグループホームの再

気仙沼市本吉町には、大震災の津波の影響で小泉大橋や道路が崩れ、六月まで立ち入り禁止になつていていた地区がありました。その一画に障害者の自立生活支援施設「ケアホームめぐみ中島」がありました。四月のオープンを控え、県の担当部署の審査を受ける直前で津波に流されました。設置者はNPO法人泉里会です。

泉里会は、平成二十年七月から気仙沼市本吉町津谷で、障がい者の自立生活支援施設ケアホームめぐみを運営しています。ケアホームめぐみは、定員が7名で、職員と利用者の距離感が近く、とてもアットホームな空気が感じられる施設です。

また、昨年からは、障害者の就労所としてイチゴハウスを経営しています。ハウスは障害者も健常者も多くの方が参加して栽培し、地域のヨミユニアティのひとつとなつていたほか、大きい実がなる為、収穫時期には地域

**ケアホームとイチゴハウス**

震災前の三月初めに賃貸で借りた建物の改修工事が終わり、気仙沼保健福祉事務所に事業所指定を受けオーネンスする予定でしたが、三月十一日の震災で建物はすべて津波に流されました。また、地域の人たちから親しまれていたイチゴハウス五棟も津波にのまれてあとかたも無くなってしまいました。幸い、前から運営していた「ケアホームめぐみ」は津波の被害もなかった為、震災当初は職員や利用者、地域の住民など一時は約四十人が避難してきました。震災から約一か月間はライフルラインもなく、その日その日の生活が精一杯で、先の見通しや津波で流れてしまつた施設のことまで考える余裕

今回の被害額は、建物のリフォーム代やイチゴハウスなど一二〇〇万円近くになります。この状況で新たに事業を始めるのはとても大変なことですし、再開するにしても、どの地域が住めて、どの地域が住めなくなるのか、という市の方針が決まらないと難しい状況です。

でも、「実際に辛いのは、お金の損失だけではなく、これまで地元の人たちと共に作り上げてきた町や繋がりが、津波で一瞬にして無くなってしまったことです。」と森谷さん。

新たに施設を建て、地元との繋がりをしっかりと再構築し活動していくよう、今は先への見通しが少しずつ見え始めています。



▲理事長の森谷隆三さん

建の為、本吉町内に新たなケアホームを建てる予定で進めています。

「震災で本当に大変な状況になりましたが、沢山的人に巡り合えて、多くの支援をいただいたことがとても力になりました。今は、前を向いて新たな取り組みに向けて動き出しています。」と、支援してくれた多くの方の写真や手紙が貼られている玄関を見ながら、ケアホームめぐみの管理責任者の菅原さんは話しています。

菅原さんは、「少しずつですが、前を向いて歩き始めているのは、利用者や職員、また多くのボランティアや支援者がいたからです」と人のつながりに感謝しています。



▲ 午アホー！ぬぐみの管理責任者菅原満子さん

三九八八一〇三三

NPO法人 泉里会

NPO法人 泉里会